

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	日々の生活の中に地域に関わるように支援、関係が保てるように理念を創っている。	○	地域で行なわれる催し(市など)に参加している。今後、地区で開催されるサロンに出向いて行きたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日のケアの中で日頃から理念の中の安心して自分らしく暮らせるように個々の入居者のケアについてミーティング等で確認しあうようにしている		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	4月、10月に「たより」の発行施設はもとより入居者様のご家族へ送付している。また連絡推進協議会を利用し各地区の民生委員の方々や地域に配布している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地区の民生委員の方々やボランティアを通して連携を図り地区総会に参加したり、回覧版を通して挨拶する機会できている。		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	育成会や自治会の地域活動に声をかけして頂き、参加させて頂いている。	○	地区公民館の各種団体(育成会)からグランドゴルフやサツマイモの植え付け等実施し、今後も参加していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	近隣の施設の認知症についての研修に参加、認知症についての勉強会に参加、また人材育成としてボランティアや実習生も受け入れている。	○	ボランティア活動等を通して高齢者との関係を深く理解していけるように支援、今後も継続していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行いミーティングで目的や改善に向けて努力している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	前回の運営推進会議で取り上げられた検討事項の報告。メンバーからの質問、意見について解答、改善に向けて検討している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当窓口に対して、折に触れ事業所のサービスや取り組みなど相談している。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	職員すべてが成年後見制度に熟知していると自負できず今後随時職員に説明勉強会を開き職員の理解を深めるようにしていきたい。	○	家族からの問い合わせなどないが、今後、社協や役場との連携で勉強会の開催や資料など揃えていく。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内では、虐待など見受けられないが、高齢者虐待防止関連法について今後勉強会やミーティングを行なうようにしていきたい。毎月の身体拘束委員会でベット柵の利用について再認識するようにしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ケアの取り組み方や考え方、退去時の対応、利用者の状態変化(入院)や家族の希望など契約時に説明、随時家族と相談を行いながら同意を得るようにしている。	○ 重度化や終末期などの対応は、主治医との連携をかね、家族と相談、利用者本人の状態を確認しながらご家族様に同意を得るようにしている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見や不満は、日常的に発言できるように、語りかけたりしているが、外部者への機会は、運営委員会などで利用者代表、家族、民生委員の中で話しされている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会のできる家族には日常の状態報告、他面会者の有無など知らせている。遠方の家族に対しては、ケアプラン更新時を利用、日常生活を便りにしたり、電話で報告を行なっている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には、手紙、電話、訪問時に積極的に、常に問いかけなどして何でも話していただけるように声かけしている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や要望や聞くように心がけている。可能な限り意見を実現できるようにスタッフ間でも意見交換を行う。	○ 今後毎月1回のグループホーム会議や他のミーティングの機会を利用、広く職員の意見が聞けるように努力、ケアに反映できるように努めたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	家族やご本人の状態変化やそれぞれに必要な支援ができるように努めている。また、職員とは常にその状況に合わせて話し合いながらシフト調整を行なっている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の移動があったが研修の目的であり、なるべく、利用者様、ご家族様には迷惑がかからないように、コミュニケーションを図るように努めた。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内で期間を設けて、研修目的での移動はある。また、他の研修の機会には、全員に参加の声かけをしている。</p>	○	各研修報告を職員全員が知りえるように、毎月1回のグループホーム会議を利用し発表している。
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>GH連絡協議会の研修会に参加、事例検討を通してサービスの質の向上に努めるようにしている。</p>		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>日常にそれぞれの悩みやストレスについて話し合い、また、何でも話せる雰囲気があり精神的に穏やかに仕事に従事できている。</p>		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>健康診断の実施や、自己研修の機会を勧め新しい介護の情報を取り入れ、向上心を持って意欲的に働けるように支援している。</p>		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>管理者交代で、まだ、初期利用の対応がないが、今後そのような機会があれば、後本人が何に困っておられるか、何を求めているかを見極めるようにしていく。</p>		
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用相談に来られたことはある。本人に対して何が一番理想であるかを考慮し、ご家族様の状況も良く聞き、相談に乗れるように努力をした。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時にご本人の様子、状況を聞き、ご家族様の意向などを確認、他施設の利用や必要なサービスの紹介をした。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用間近にはご家族様だけの訪問ではなく、ご本人にもできるだけ、家族の方と一緒に見学して頂ける様に話しかけている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	いつも利用者と話す機会を持ち、利用者の方が職員の方を良く見てくださり、体に気を使って言葉かけされる。また、時には職員も一緒に怒り笑いに満ちている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話等の機会に、日々の暮らしの出来事や健康状態を伝え今後の目標など一緒に意見の交換を行い、ご家族の代わりに見守っていることを伝えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の少ないご家族様には、日常の様子を伝えたり、なるべく面会に来て頂ける様に連絡を取ったりしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方が気軽に訪問できるように、訪問時は家族を迎えるように温かく接し、面会時など次回の面会にも継続できるように声かけをしている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個別に話しを聞き、レクリエーション等で皆さんが交わる機会を作り共通の話題で和やかな雰囲気の中で交流できるように心配りを行なう。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院やサービスの終了をされた方々もお会いする機会があれば互いの近況を伝え合い今後についても情報交換を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の関わりの中で、何をしたいか、どのように暮らしたいかを聞くようにしている。表現がしづらい方も、ご家族と相談したりしている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ADLの状況の観察を行ない、日々の会話の中で話題にしたり、ご家族から情報を得るようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの暮らし方や、睡眠、食事摂取、排泄について職員は変化など常に記録に残し情報交換に努めている。		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意見など聞いたり、職員全員で意見交換や日々の関わりなどの中から、その方に合わせた、介護計画を作成するように努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月ごとに見直しを行い、ご本人やご家族の要望に副えるように作成、状態が変化した場合には終了する前であっても検討見直しを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の関わりの中で、ご本人との関わり方やケアに対する気付きなど話し合ったり、ご本人の言葉をそのままケア記録に記入、全職員が情報を共有し統一したケアが出来る様になっている。		
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の要望に応じて、重度化した場合や終末期の入院の回避など、医療連携(主治医に相談)を活かし臨機応変に対応した。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して暮らし続けられるようにグループホームの行事に招待し地域の民生委員の方々や役場・ボランティアの方々や入居者やご家族との交流を頂いている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状況や希望に応じて、ご家族からの申し出や、ご本人のインフォーマルな支援(馴染みの理・美容院に出かけたり、来ていただいたりしている)やサービス事業者を利用し介護相談を行ないながら介護用品の購入(失禁シーツやオムツ等)も行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	入居者の保護義務者の状況においては今後の支援について、安心できる老後を過ごせるように地域包括支援センターと協働して行く。運営推進会議等や事業所で解決できない問題や成年後見制度に関しての相談など協力関係が築かれるように努める。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。受診に際し、ご家族の同行不可能時や緊急性のある場合は、職員が代行するようしており、ご家族にはその旨説明している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに気遣いながら、対応に勤めているが、他者への激しい誹謗や暴言などに職員も苦慮する場面もあり、他利用者への対応など職員間でも検討対応している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	散歩場所や入浴の希望の時間等を本人の意向を大切に実施している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れの中で利用者の状況にあわせ利用者の確認を取るようになっている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容美容は本人の望む店に行けるように努めている	入浴前や汚染時の更衣の際は、本人の服を選んでもらったり、体の自由の利かない方には気に入った服を選ぶ手伝いを行っている。散髪の希望を聞き定期的に散髪依頼や髭剃りを行い身奇麗でさわやかに過ごされる様に支援している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューは一応、併設側よりある。たまにメニューにとらわれず利用者の意見を聞き、好みを聞いて作り変えたりしている。食事が唯一の楽しみと考える。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好については職員は利用者の意向を酌むようになっている。飲酒も本人はもとより家族や主治医の許可をとり定期的に楽しんでもらう。タバコについては、防災の面でも喫煙の場所を決めている。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	時間や習慣、トイレに向かわれての行動などを把握し、誘導、みまもりを行ない汚染時は他の入居者の目に触れないように気配りをしながら保清の援助をする。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴できない方、拒まれる方に対し 持ち前の温泉源を利用した施設である事をアピールしたり、気の合ったスタッフが声かけ、1対1の対応とチームプレイで支援や利用者の希望を確認し入っていただく。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	疲れれば横になり、トイレ行ったり、食事には少し時間はずれながらも自分で参加する毎日を過ごされる方や時計の様に行動される方など皆さん個性があり一人ひとりの状態を観察、職員間で前日や前夜などの情報を共有して穏やかに生活出来る様見守りをしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	レクリエーションが得意な方、歌が上手、下膳を積極的に割れる方等それぞれの持分をスタッフは共有し声かけを行なってなされる行為を評価し本人の生きがいに繋がるように支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自分でお金を持つ事を楽しみにされ近くの商店へ出掛けて自分の欲しい物を財布からお金を出し買い物をしたり、食べたい物等、購入依頼して自分の財布からお金を出して頼まれるのがとても楽しみなご様子です。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に近隣に散歩に出かけている。、車椅子の方々にも声かけや散歩を促すようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人が行きたいと思われる所や希望される事を、家族の面会時に家族の都合などともに話し合いご家族の協力を得ながら実施して楽しい時間を過ごせている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される時は事前にご家族に了解を取っておき連絡の着く時間帯にかけられるようにアドバイスを行なう。字を書く事が困難な方には「代筆を行い近況の連絡が取れるように援助している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や馴染みの人達が来所されても、いつも笑顔で対応し、何でも話しやすい雰囲気作りを心がけている。面会時間については、一応設定はしているものの家族に合わせた対応で柔軟に対応できるようにしている。	○	利用者にとってグループホームは家であり、家族にとっては親の家として気軽に訪問できるように今後も職員の対応と雰囲気づくりに工夫していきたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解できるように勉強会を事業所の中で実施し職員の共通認識を持ち拘束しない介護を実践している。	○	今は拘束の対象となるような方が居られず又、今後拘束をしないケアに取り組んでいきたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が外に出て行かれるような雰囲気とその動作言動などから、職員間でその情報を共有し見守りや連携プレーを図りさりげなく一緒についていったり自由な暮らしができるように支援していく。	○	利用者の雰囲気などスタッフ間での情報をいつも共有、外出方向などで意志や意向を他者に伝えられない方には安全が損なわれないように支援していきたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は必ず見守りのできる位置にスタッフがいるようにしている。夜間は数時間毎に利用者の様子を確認し、起きられた時の対応ができるようにしている。	○	常に安全と安心の暮らしができるように見守りしている。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	喫煙時のライターの利用は任せるが使用後の吸殻やライターの確認は行い事故の予防に努める等利用者の状況に合わせて注意し尊厳と保護するべきものの保管管理が必要な物、注意が必要な物に分けて管理をしている。	○	現在行なっている行為が今後も必ず大丈夫という事はないので常時起こりうる危険に対し注意していく。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	利用者毎に普段の行動を見守り予測される危険を検討事故も未然に防げるように声をかけ見守りをしている。緊急時の避難訓練等も実施する。万が一の事故の時、事故原因の今後の予防策や家族への報告を行なっている。	○	ヒヤリハット時は記録に残し、危険をスタッフ間で共用し、事前に予防に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の協力を得て救急救命法の学習を行なっており、緊急時のマニュアルの作成や対応方法は定期的に学習会を行なう。	○	救急法など学習や訓練など勉強しているが夜間など人手の少ない時の対応に不安を感じるスタッフも少なくない。全ての職員が周知徹底して獲得できるように挑みたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ろうけん併設であり、避難訓練が独自に行われ低なかったが、行なえるようにしている。	○	少人数の利用者であるが利用者も重度化してきたり認知的な面でハードであり、常に安全を視野に入れ日常的に対応が柔軟にできるようにしていきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	下肢の筋力低下が著しい入居者が「自分で歩こうとされればその機会を奪わず安全に歩ける援助を行なう。シルバーカーの利用とか歩行の見守りなどで安易に車椅子を利用させ歩く機会を奪う事のないようにする。ご家族には実際に歩行状態を見ていただき転倒の危険があることは気付いていただき安全な歩行の援助を行なう。	○	出来る力を奪わず少しでも動ける満足感を自覚できる援助を行なっていく。危険は隣合わせの為見守りや援助の手は惜しまない。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	スタッフは普段からその状況を把握し、食欲、顔色、様子観察し変化を気付いた時にはバイタルサインのチェックを行い、職員間で情報の共有、看護師、主治医への連携を図り対応にあたっている。	○	早期に状態変化等の発見、Drとの連携、又情報を得て利用者の健康管理に留意していきたい。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	家族の面会時等を利用し服薬の変更や常時服薬の説明などを行なっている。服薬は個人により確実に服用できる方や袋も破けない方さまさまな為確実な服薬の見守りや援助を行なう。また、本人の状態の変化など見られる時は、記録スタッフと協議しDrにも相談できるようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	各勤務帯にて個人の排泄チェックを行い排便の間隔がある場合は牛乳や冷水の補給や腹部マッサージ等で様子の確認、繊維質の多い食材など取り入れる。それでも排便が見られない時は主治医の指示を受け緩下剤の与薬とその反応を確認する。	○	高齢者は食事量や水分の摂取量もすくなくなりがちで運動量も少なく便秘に傾きやすい為悪くすると腸閉塞の危険もある為常時排泄の管理は行なっていく。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	寝たきりの入居者に対しては、義歯の洗浄や残歯の歯磨きを毎食おこなっている。自分で出来る方は洗浄後の確認を行ない状態に応じ声かけで促したり本人の出来る力を伸ばせるような援助を行なう。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を毎日チェック表に記録し職員が共有している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	事業所内で起こり得る感染症について、細かくマニュアルを作成し予防に努めている。発病の危険を予測し早期発見、早期対応に勤めている。利用者家族に同意を頂職員ともインフルエンザ予防接種を受けている。	○	感染症については利用者の健康管理に心を配りその都度安全安心できるように支援していきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の点検、掃除、食材は鮮度や状態を確認し早目に調整献立の変更で使い切ったりして冷蔵庫、冷凍庫の残りの処分や点検を頻繁に行なっている。調理の前は必ず手洗いを行い、食器やなべ類は使用後はきれいに洗浄、乾燥を行い残飯類は、はやめに片付け台所を衛生的に使用している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ご面会の方々がお出でになられたら玄関先でお迎えをして、近況を知らせる。お茶を出し、本人とご家族の表情にも目を向け、退室の際は何かご意見や気付かれた事はないか要望など伺うようにする。玄関を出られる時には「安全運転」への言葉かけと次回の訪問を楽しみにお待ちする事を伝え見送りを行なう。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールはいつも季節感を取り入れていただけるように花を飾ったり、共用のテーブルの模様替えなど利用者の意見を取り入れている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自分の部屋やリビングと歩行の途中で休まれるような椅子の配置を行い皆さん自由に使われる。食事の席も季節ごとに配置を替え、見える景色の変化も楽しんでおられる。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の状態や家族の意向をとり入れたり、写真や使い慣れた日用品家具の持ち込みもあり、利用者の要求にあわせている。本人が自宅で栽培していた、花等持参された際は直ぐ花瓶に飾り本人及びたの入居者の方々にも楽しんでもらっている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	西日の当たる部屋には日除けのすだれをかけたりカーテンや窓の開閉やなど本人の意向を確認しながら行なっている。また、外の庭にはつる物を植え自然の茂みを作る工夫をしている。冷暖房の管理、扇風機の活用などで快適な空調管理を心掛けている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子で移動しやすい空間作りや環境整備を行い危険の予防と安全な生活環境をつくっている。	○	排泄で床を濡らしやすい入居者がトイレ利用後は速やかに床の清掃を行い転倒の予防と環境の整備と心掛けている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	「ここは何処」「今、何時だ」等不安や身体症状など見られる時は、その状況にあわせて、その都度職員一同で話し合い本人の不安を取り除くように何回でも分かりやすく時計を見せたり、案内を書いて読んでもらったりと説明をしている。	○	不安の訴えのある方など職員は傾聴し、少しでも安心されるような対応と言葉かけを続けて行きたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先に、花壇を作り季節の植物で眼を楽しめるように手入れしている。。外出を嫌がられる入居者に玄関先の花を楽しんでもらっている。	○	玄関先に駐車場があり車の出入りが多い為入居者が単独で外出による危険が無い様、常時見守りを行なっている

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりの個性を大切に、日常生活を無理なく穏やかに過ごして頂ける様に「今、何が必要か。何を求められているか」心配りをしながら援助していきたい。